

#2 小諸エコビレッジ自然エネルギー学校 in 秋祭

FIT(固定買取制度)を投機ファンドだけに席卷されないように市民でつくるミドルリスク・ミドルリターンの市民ファンドの活用と実際の発電所作りの実務を学び理解し合う講座です。是非、参加ください。

カリキュラム 1日目 9月29日(土)

11:00~導入編

「市民ファンドサポートセンターの役割」都筑建(PV-Net)

11:30~座学編 買取制度、市民ファンド活用の実際

座学講座 1. 出資について(匿名組合の実際)・・・島田政美(出資専門企業)塩澤三木夫/座学講座 2. 中規模太陽光発電設備の系統連系と発電量確保について・・・國井範彰(PV-Net)、タキゲン担当、伊達博(シフト・エーイー)

15:00~実学編

実学講座 1. 太陽光発電を測る・・・

宮下洋一郎(エコテック)、浅井順(日本カーネルシステム)
太陽光発電の測定の要となるのは1-Vトレーサーです。中古パネルを実際に測定し、不具合内容の実際を把握します。

9月29日の夜

ドイツ映画「シェーナウの想い」(60分)のDVD上映会有

太陽光発電の42円・20年間の固定買取制度(以下FIT)が7月から施行されています。これまで全国各地のシンボルとして、また協同で地産地消の自然エネルギー普及を進める方法として、寄付型の市民共同発電所が数多く作られてきました。FITの出現により配当と元本返済が得られる出資型方式の実現も全国各地で模索されています。PV-Netでは各地で試行されている、50~500kWの中規模の太陽光市民共同発電所作りをサポートする「市民ファンドサポートセンター(PFSC)」を立ち上げました。PV-Net自身でも東北復興支援や地元の人達の要望に合うように協力して自律的に運営のできるシステム建設と運営づくりを積極的に進めています。専門家だけでなく市民がかかわって地域の主役となるにはそのための体制づくりとスキル(技術、技能)を習得した人材育成が欠かせません。FIT(固定買取制度)を投機ファンドだけに席卷されないように市民でつくるミドルリスク・ミドルリターンの市民ファンドの活用の発電所作りの実務を学び理解し合う講座です。

小諸エコビレッジ 小諸市甲 4717 (旧港区高原学園跡地)・・・

T& F: 0267-41-0961 秋祭会場案内/小宅春樹 TEL090-4718-9894

自然エネルギー学校 当日案内/藤井和貴 TEL090-1509-0910

2012年9月29日(土)、30日(日)

開催場所:小諸エコビレッジ

参加費:一般 2,000円/PV-Net 会員 1,500円(宿泊費は別途)

参加人数:50名 申込み〆切日 9月25日

主催:NPO 法人太陽光発電所ネットワーク

共催:㈱アバンティ、こもろはす倶楽部

後援:長野県、港区、小諸市(交渉中)

申し込み:所定用紙(裏面)にてFAXでお申込みください。

用紙は www.greenenergy.jp から入手できます。

カリキュラム 2日目:9月30日(日)

10:00~12:00 実学講座 2.企画設計の初歩・・・エコテック+参加者

エコビレッジに太陽光発電を設置するとしたらという設定で数班に分かれて「エコビレッジの地図+巻尺+カメラ+方位磁石」を持って実測をする。それを基に発電設置の適地設定とエコビレッジにふさわしい設計プランを作ります。

13:00~14:30 特別編 (以下参加費無料)

シンポジウム「市民の手による自然エネルギー普及と活用」

日本では住宅用が9割と言われるように太陽光発電はこれまで市民主体で普及が進んできました。FIT導入後健全な太陽光発電の普及には市民参加の重要性が増えています。自治体の政策と密接に関連しながら地域づくりつながるソーラーライフ=スマートコミュニティ作りをどのように進めていくかが求められています。この視点から小諸エコビレッジに関連されている自治体の担当者を交えて討議を進めます。コーディネーター/ 都筑建(PV-Net) パネラー/中島恵理(長野県地球温暖化対策課長)・岡本一道(こもろはす倶楽部)・伊藤麻紀(小諸エコビレッジ理事)・藤川まゆみ(NPO 法人上田市民エネルギー)・伊藤博文(伊豆の国市市民共同発電所、静岡)

